



旧亀山城多門櫓



鈴鹿峠自然の家



片山神社



鹿伏免城跡



加太駅舎

特集

亀山の歴史的景観

このまちの原風景を残す



板下のまちなみ



関のまちなみ



板屋川橋梁



野村一里塚



野村のまちなみ

東海道沿いや関宿など、このまちに今も残る歴史的景観は、そこに暮らす人々の思いやそれらを守る人々により継承されています。

本市では、地域の個性ある景観づくりの核となる重要な建造物を、景観法に基づく「景観重要建造物」として位置付け、それらの保全・活用に取り組んでいます。昨年12月には、民間住宅で初めて「森家住宅主屋」(野村三丁目)を景観重要建造物に指定しました。

問合先 都市整備課都市計画グループ ☎84-5046
文化課まちなみ文化財グループ ☎96-1218

「森家住宅」を新たに景観重要建造物に指定

建物の価値や良さに 多くの人に気付いてほしい

昔から街道に興味があって、野村の東海道沿いの景色を初めて見たとき、非常に心打たれました。京口坂から見た野村の街道はとてもインパクトが強く、両側に民家があって、道路上に尾根、鈴鹿山脈の山が見えるこの景色が私は大好きです。

亀山市は文化や歴史に力を入れていて、このように熱い思いがあるまちで何かをしたいと思い、25年前、友人が街道沿いに所有していた現在の森家住宅を購入し、妻と骨董カフェを営むことにしました。今まで、日本全国、歴史的な風景が残る場所へたくさん行きました。それぞれに土地柄があり、どの景色もすてきです。でも、私は、やはりこの野村の街道のまちなみ、景観がとても好きで、この建物は壊さずに残していきたいと思いました。

景観重要建造物に指定されると、建物の改修に許可が必要になるなどさまざまな制約があります。しかし、こうした制約がかかるからこそ、簡単に壊されてしまったり、いつの間にかなくなってしまうということがなく、建物が保全されて次の世代に引き継がれ、守られていると思っています。



さまざまな思いを持った人が、 歴史を感じながら心落ち着く場所にしたい

街道には、たくさんの旅人が来ます。「なぜ東海道を歩くのですか?」と尋ねると、「まちなみがきれいだから」という理由のほかに、「学校や職場で何かあったり、人生につまずいたりいろいろあるけれど、昔の人が往来した道を歩くと、人生の目的など先が見えてくるから」などの返事が返ってくる場合があります。街道沿いで骨董カフェを営んでいると、さまざまな人との出会いがあり、いろいろな会話をすることができます。

人が集まる場所として活用することで、ここに訪れた多くの人に建物の価値や良さに気付いてほしい、少しでも建物の保全につながってほしい、そんな熱い思いを抱きながら、この森家住宅は、地域に開かれた建物にしていきたいと考えています。



森家住宅主屋所有者
森 正保さん

Profile
歴史や歴史の趣きを感じられる建物への思いが高まる中、友人が所有していた現在の森家住宅を購入し、妻と骨董カフェを経営。

亀山の景観重要建造物

歴史・文化的価値、外観の状態、地域との関わりなどを総合的に判断し、道路や公園等から容易に見ることができる建造物のうち所有者等の意見を聴き、同意が得られたものを指定しています。森家住宅を入れて、6件あります。(令和7年3月時点)



旧亀山城多門櫓
本丸町／平成25年4月1日指定

多門櫓は、天守台と言われる本丸高石垣上にあり、寛永9(1632)年頃に築造されたとみられ、現存する多門櫓は、18世紀後半に建造されたと考えられます。



加藤家長屋門ほか
西丸町／令和4年2月1日指定

加藤家は、亀山藩主石川家の家老職を代々勤めた家で、亀山城西之丸に屋敷を構えていました。亀山城下町において、屋敷・建造物が一体となって保存されている唯一の武家屋敷です。



旧館家住宅
西町／令和4年2月1日指定

館家は、幕末から大正時代にかけて呉服商を営んでいた亀山管内の本店で、現在の主屋は明治6(1873)年に建築されました。東海道「亀山宿」を代表する町家建築の一つです。



旧田中家住宅土蔵、文庫蔵
関町新所／令和4年2月1日指定

田中家は、関町新所で江戸後期に栄えた「田中三家」の一つで、幕末から明治初期の屋敷の様子が残されています。文庫蔵は、旧田中家の屋敷を構成する建造物の一つです。



旧三谷家住宅離れ、表門ほか
関町木崎／令和4年2月1日指定

主屋は江戸後期の建築とされ、旧当主の先々が製陶工場を営んでいました。大正時代に主屋の東側3軒を取得した後、庭園とあわせて離れ、表門および塀を建て、現在は「関の山車会館」として整備しています。

価値ある景観を守る、生かす

歴史的背景の残る建物を保全し 後世に残したい

私が古い歴史ある建物に興味を持ったのは40代の頃、まちなみを保存する市民活動に参加したときでした。亀山の東海道にはすごく価値のある歴史的建物が残っていることを知り、それを守っていきたいという意識が芽生えました。その後、歴史的な建造物を調査し、改修設計して残していく専門家「ヘリテージマネージャー」となり、勉強しただけではもったいないと、仲間と会を作って活動を始めました。

景観を守りながら所有者の生活も守りたい

伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）の改修設計は、行政と連携しながら行っています。現場を見て、いつ頃の建物で、こういうふうには造られているからこう直そうと判断していきます。当時の姿に戻すことが理想ですが、それとあわせて、その所有者が生活していくのに不便にならないように考えるのが私たち設計士の仕事です。そして、私たちの設計したものを形にしてくれる大工さん、職人さんなどいろんな人が関わってくれることで支えられています。

歴史的な建物は、私たちに安心感や癒やし、 幸せな感情を与えてくれる

歴史的建造物を残していくのに大切なことは、火事や大きな地震など、さまざまな事象によって建物が損壊した場合、修復に必要なデータがあるかどうかです。森家住宅については、建物全体を図面化することができました。また、これら建物の価値に気づき、認識してもらうためには、森家住宅のように活用していくことも重要であると思います。

今後、歴史的な建造物だけに限らず、価値のある建物を発見、発掘して後世に残していくために、これからも亀山の魅力ある歴史的建造物を守り、活用していきたいです。



特定非営利活動法人
亀山文化資産研究会

会長 中浦 豊子さん

Profile

鈴鹿・亀山両地域において歴史的な建物などを調査し、国登録有形文化財に推挙するほか、関の伝統的建造物の保存修理を担い、毎年、修理工事の現場見学会を行うなど、価値のある歴史的・文化的な資産を守り、活用していくための事業を展開中。



歴史あるまちなみを守るための市の取り組み



文化課まちなみ文化財グループ
豊田 親臣

関地区内の伝統的建造物等の保存修理修景事業を担当しています。伝建地区内に暮らす住民にとっては、文化財であるが故に、現状変更行為の規制がある中、生活しながら保存することには不便があると想像できます。地域の歴史文化を保存することと、現代的な生活を確保していくことの両立は容易ではなく、住民の地域への愛着、歴史文化への深い理解などの積み重ねにより、調和の

ある美しいまちなみが維持されています。

国の重伝建選定から40年を経過した現在、伝統あるまちなみを未来へつなぐために、伝統的建造物などの修理修景事業を今後も計画的に進めていきます。また、住民の皆さん、保存団体の皆さん、関宿の未来を担う子どもたちとともに、東海道の宿場町で唯一の伝建地区「関宿」のさらなる保存と活用に努めていきます。

◎保存修理修景事業の様子



魅力ある歴史的景観を継承する

個性ある景観を活用することが地域活性化につながる

亀山は東海道が通っているのも、古代からの文化が集まって昔からの歴史的なまちなみがよく残っています。東海道は江戸時代最大の幹線道路でたくさんの物流があり、多くの人が行き交い、栄えていました。東海道の存在が亀山の最大の特徴で、豊かさをもたらしていました。鈴鹿川と高低差のある安全な台地の上に築かれた城下町の景観、また、関宿は1.8kmもあり、日本で最大級の宿場町です。きれいな鈴鹿山脈の自然景観もあります。このように、亀山の景観はいろいろ特徴があって、個性があります。

今、地方都市を活性化させるために個性のある地域資源を生かした地域再生が求められています。その有力な手がかりになるのが歴史文化です。亀山市の場合、東海道というすぐありがたい存在があって、その歴史文化を生かした有力な地域資源の代表格は建造物と言えます。



亀山市景観審議会
会長 浅野 聡さん

Profile
國學院大學観光まちづくり学部 教授(元三重大学 教授)。専門分野は、都市計画、景観計画、協働型まちづくり、防災まちづくり。学会活動以外に、東海地方を中心に国・県・市町村の都市計画・まちづくり・防災まちづくり分野の審議会、委員会、関連プロジェクトに多数参加。

子どもたちにこのまちの「原風景」を残す

歴史的な地域資源には大きく分類すると、有形のものと無形のものがあります。有形の代表格は建築物、土木構造物、庭園で、無形のものは関宿の祭りのような伝統行事や地場産業などです。

地方都市において、このような有形と無形の歴史的な地域資源を組み合わせると、大都市からたくさんの人が来てくれます。経済的に活性化し、にぎわいがあり、生き生きとしているまちは、新しい定住人口も確保しやすくなります。また、子どもの頃からその地域資源を見てみると、その人の物の考え方のベースとなる原風景になります。これは重要で、亀山で生まれた子どもたちが地元を離れたとき、ふるさとに帰ってくる動機づけになります。

しかし、この10年間くらいの間に城下町の伝統的な建築物の取り壊しが増え、歴史的な景観が喪失、消失してきていることは大きな課題だと思います。関宿の宿場町は伝建地区なので、他の地区の状況に比べればしっかりした制度に守られています。城下町も、関宿と負けないぐらいいい景観があり、東海道沿いの町屋からなる町人地のみならず、かつての武家地も土地の区割りや建物の配置、外構や石垣、道路形状などがよく継承されています。今後は武家地の魅力も引き出したいと思っています。



亀山にしかないまちの魅力を再発見

今に残る歴史的な建物をこれまでと違う視点で見ませんか？
新たな発見や出逢いがあるかもしれません。

GPS対応イラストマップでまち歩き
ambula map (アンブラマップ)



紙媒体のイラストマップを、スマートフォンやタブレットで見ることができるので、持ち歩きに最適です。アプリのダウンロードは不要で、無料で利用できます。

亀山市公式YouTube



亀山城下
まち歩き
マップ



関宿イラスト
案内図



観音山公園
ガイドマップ



加太地区
散策案内図

歴史をみつめた城
伊勢亀山城



日本の東西を結ぶまち
東海道関宿

